

2 医療センターの規模

(4) 床面積の考え方

- 2001年から2025年までに建築された公立病院の1床あたり平均床面積99.41㎡を用いて、必要な床面積を試算すると、現在の医療センターの規模を超えることが見込まれる。現在の医療センターと同程度の面積規模とするには大幅な見直しが必要となる

病床数	面積
500床	49,705㎡
450床	44,735㎡
400床	39,764㎡
350床	34,794㎡
参 考（現在の医療センターの面積）	
514床	35,903㎡ ※1

※1 看護専門学校棟、看護師宿舎棟、立体駐車場棟を除く

3 医療センターの今後の施設のあり方(整備の方向性)

(1) 今後の施設に必要な要素

望ましい立地

- 有事の際にも質の高い医療を継続的に提供できるよう災害の影響を受けにくく、かつ患者にとって利便性の高い場所

求められる機能

- がん診療をはじめとした質の高い医療の提供と高度化に対応する専門人材の育成ができる機能
 - ・がん診療部門の集約による各部門の連携強化と効率的に専門性を発揮できる環境の整備
 - ・手術室の増設、高度化・大型化する医療機器に対応した手術室スペースの拡充
- 安全・安心で質の高い政策医療を提供できる機能
 - ・個室の増室など療養環境の改善とNICU・GCU・MFICUの格納スペースの拡充、設備の更新
 - ・感染症医療への対応強化のため、患者の安全・安心を確保した陰圧個室の設置、患者動線の分離

必要な構造

- 災害時にも医療提供機能を維持するための免震構造
- 将来的な医療需要の変化に対応できるフレキシブルな構造
 - ・将来のレイアウト変更に備えた内部柱の少ない構造、配管・配線類の変更が容易な二重床の採用

3 医療センターの今後の施設のあり方(整備の方向性)

(2) 医療センターの現在地

- 現在は小倉都心部に所在し、公共交通機関も発達していることから患者にとっての利便性は極めて高い



■ 現在の立地の特徴

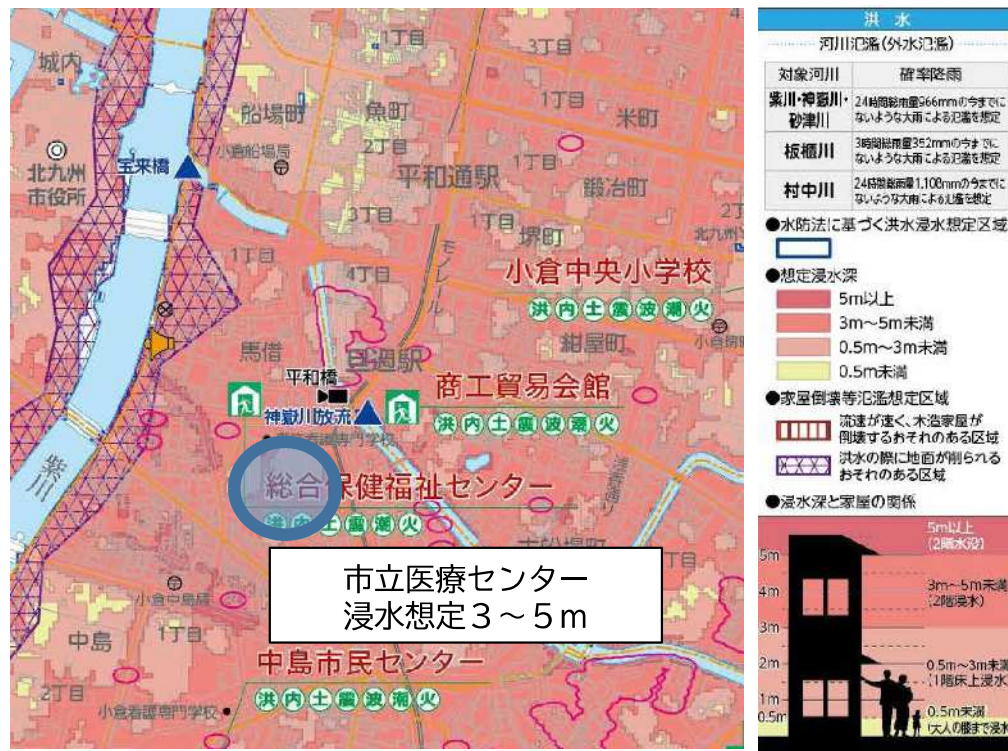
- ・ JR小倉駅から南南西に約900m（徒歩12分）
- ・ 小倉北区内であれば自家用車で約15分以内、小倉南区、門司区からは都市高速道路使用で約30分以内と利便性が高く、駐車場(320台)は、午前中に満車の状態が発生
- ・ JR小倉駅直結のモノレールで約2分
- ・ 市立医療センター前のバス停には、小倉南区、八幡東・西区、門司区方面からのバスが停車

3 医療センターの今後の施設のあり方(整備の方向性)

(2) 医療センターの現在地

- 利便性が高い一方で、現在地は北九州市防災ハザードマップにおいて河川氾濫時に3～5mの浸水の可能性があるとしてされている
- 非常用発電装置等の設備が地下1階に配置されており、大規模な河川氾濫等の際は電源喪失のリスクがある

北九州市防災ハザードマップ(R6.2.1公開)から抜粋



■ 災害対応における問題点

- ・ 非常用発電装置等の設備、機械室、ボイラー室、防災管理室等の設備がいずれも地下1階に配置されている
- ・ 現状の対策として止水版や排水ポンプ等を設置しているが、十分な対策とはいえない
- ・ 大規模な河川氾濫等の際は電源喪失のリスクがあり、これらの設備の移設は建替以外では不可能